

実践事例

指導内容：【聞くこと・話すこと】小学部1段階

教材と仕組み：足りないパズルのピースを教師から受け取って、パズルを完成させる仕組み

題材目標

知・技： 要求したものと異なるものを渡されたとき、ジェスチャーの意味がわかり、受け取ったものを教師に渡す

思・判・表： 『パズルゲーム』で、渡されたパズルピースが、要求したものと異なるとき、要求したものが何かを考え、それとは異なると判断し、ジェスチャーで『違う』ことを伝える

学び： ことばで表すことやそのよさを感じるとともに、ことばを使おうとする態度を養う

評価規準

知・技： 要求とは異なるものを渡されたときに、『違う』を意味するジェスチャーをする

思・判・表： 要求とは異なるものを提示されたり、渡されたりしたときに、ジェスチャーで『違う』ことを伝える

学び： 活動に取り組む中で、ジェスチャーを伝えて要求などを伝えようとする

三観点	評価
知識及び技能	自分で『違う』ことを意味するジェスチャーをする様子が多く見られるようになった。教師の見本を見てジェスチャーをすることもあった。
思考力・判断力・表現力等	要求とは異なるものを渡されたときに、ジェスチャーで『違う』ことを伝える様子が多く見られるようになった。時々、ジェスチャーで『お願い』と伝えたり、渡されたものをじっと見たりすることがあった。
主体的に学習に取り組む態度	パズルのピースが足りないときに、足りない部分を指さした後に、ジェスチャーで『ちょうだい』と伝えたり、要求とは異なるものを渡されても、教師の方を見て、ジェスチャーで『違う』ことを伝えたりする姿が多く見られるようになった。



要求を伝えるための教材の設定

望む姿	意図と働きかけ	結果	改善内容とその結果
パズルを作っていく過程で、足りないときは『ちょうだい』、渡されたものが違うときは『違う』ことをジェスチャーで伝える	パズルを作るといふ目的をもつために、教師と一緒にパズルを作る 	途中で離席することが多い 	①一緒にパズルを完成させる 段階的にピースを増やす 徐々に、自分でパズルを作るようになった ②ピースが足りない状況→要求→ピースを渡す ピースがないことに気づき、教師にジェスチャーで『ちょうだい』と要求できた ③ピースが足りない状況→要求→異なるピースを渡す 要求とは異なるものを渡されて、ジェスチャーで『違う』と伝える様子が見られた



『違う』ことをジェスチャーで伝えるための教師の支援の段階

望む姿	意図と働きかけ	結果	改善内容とその結果
『違う』ことをジェスチャーで伝える	ジェスチャーの意味がわかるように段階的に支援を減らす ①教師が 手を添えて 、『違う』と言いながら一緒に『違う』のジェスチャーをし、要求に応じたものを渡す ②教師が「違う」と言いながら 見本を示して 、それをまねてジェスチャーをしたら、要求に応じたものを渡す ③教師が「違う」と ことばをかけ 、『違う』のジェスチャーをしたら、要求に応じたものを渡す ④要求とは異なるものを渡して 見守る 	段階的に支援を減らしていくことで、教師のことばを聞いてジェスチャーで伝える姿が見られるようになった 	支援を減らしたときに、別のジェスチャーが見られた場合は、 支援の段階を戻して 繰り返し学習を進めた 異なるものを渡されたときに、ジェスチャーで『違う』ことを伝える姿が見られるようになった

授業づくりの工程

前題材までに到達している実態を把握

子どもに望む姿を想定

指導内容の決定
(研究生産物を基に)

学習指導要領の指導内容から段階を決定

題材目標の決定

教材の設定

題材設定の立場記述

題材計画構想

授業構想シートを活用

本時案作成

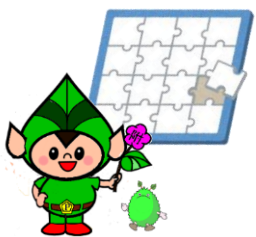
題材開始

R研で毎時間の授業の評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

【R研】
国語・算数の授業実施日に行う、授業の評価や改善について話し合う場



次題材に向けて

自発的に“ことばをつかう”ためには、話すための必然性がとても大切だと感じた。本グループのように、国語科の1段階や2段階の指導内容を扱う児童の場合、本題材のような要求の場面は、【聞くこと・話すこと】の指導内容を取り扱うことが可能だと考える。

本題材では、『パズル』を教材として扱い、ピースが足りないときに要求をするようにして、児童が話す要求に答えてもらえるという状況を設定した。今後も、児童にとって“聞きたい”“話したい”と思うような学習場面を設定していきたい。

児童が『お願い』や『ちょうだい』『違う』など、いくつかのジェスチャーを身につけていく中で、場面と異なるものを用いることもあるので、学習の中はもちろん、生活の中でも扱い、適切に使用できるものにしていきたい。